

ITUのホーリン・チャオ事務総長と会合

時間、場所および場所: ITU のタワー 14 階、20:18:10:1、11:00-11:30

参加者: 大和コンピュータ(株)代表取締役社長中村健二氏
部長の田代隆氏。

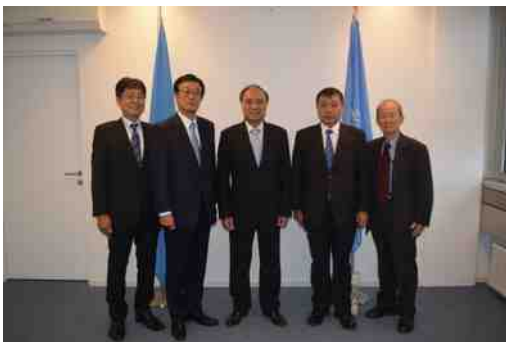
長野県塩尻市の CTO、金子春雄氏
ITUAJ 顧問、川角靖彦 ITU-D SG1 副議長

理事会決議に基づく ITU-D ミーティングの中小企業パイロット参加の機会に引き続き、中小企業が 2018 年のパイロット期間に ITU-D、R、T ミーティングに参加できるように奨励している H.

Zhao 氏は、歓迎をした。中村氏、田代氏、金子氏が事務総長に感謝の挨拶。

スマート社会における ITU-D SG2 Q1 / 2 の中で提示される提案について簡単に説明。

大和コンピュータは、新規事業のために開発されたセンサーを利用した水耕法によるマスクメロンの ICT 農業への貢献を提出した。塩尻市は、地元の産業階層のピラミッドの頂上にセイコーエプソンの下に多くの中小企業がある周辺地域の塩尻市の周辺サプライヤーから調達されたさまざまな IOT センサーを配備し、スマートな持続可能な社会の貢献を提出しました。彼らの活動の製品のトークンとして、マスクメロンと塩尻のワインが事務総長に渡され、彼は喜んで受け入れた。彼は過去に北海道を訪れる機会がありましたが、夕張メロンを生産しているのを知っていましたが、中村さんは富士山の麓近くの袋井市でメロンを育てていると説明しました。事務総長は、ITU-D ミーティングへの参加を高く評価し、ITU-D ミーティングの他のメンバー参加者との有用な対話を期待した。彼は学校の子供たちが PC やスマートフォンを持っていない既存のデジタル格差についての話を加えましたが、通信当局は近い将来、5G サービスを計画している話をした。添付の写真をご覧ください。



-end-